

第 13 計;中国人は助けを求めるときでも、何故本心を明かさないのでか？

一負け犬になりたくない面子主義 中国人には敗北は人生の死一

日本人は交際の最初は本音(ほんね、本心)を明かさず困った時に本心を明かしますが、中国人はそうではありません。察知させようとしません。例えば泣くとか・・・。然るに私は、はっきりと説明の聞くまでは、中国人には助けないようにしています。中国式放置主義であります。

中国人の面子なのか？、恐れなのか？、敗北なのか？、恥なのか？、自己の性格否定なのか？・・・。私は、俯瞰的視点を持っているつもりだが解決の方法が見つからない。

例えばその人の話を初めて聞く場合で、その内容が・・・

内容①の答えが「一」、次の内容②の答えは「十」、また次の内容③の答えが「才」、また次の内容④の答えが「木」・・・内容⑤の答えは「本」と言うようにその人の話を聞くと、答えが変わるはずであります。私は内容⑤の答えは「本」であると思っている。こういう場合私の人生経験では「本」は金銭であることが多いのです。

私は、金銭問題は貸すのではなく、稼ぐ仕事のチャンスを与えればよいと思っています。日本人は大抵それを理解して感謝されるが、中

国人は理解しない。金額の数値すら言わない。従って私は放置主義を適用するのであります。

日本人は本心が“一心”である人が多いが、中国人の中には“二心・複心”である人を多く見かけます。交流期間に問題があるのかも知れないが・・・。

私は最初から時間節約のため、本心を言うタイプです。

日本国総理大臣は“私は必ず雇用を守る”と言いました。これほど国民を馬鹿にした言葉はないと思います。私の叔父は社長時代に自分は従業員の給料を自分一人営業で儲けるのが社長の仕事であると言ったものです。私は身内の自慢をしたくないが、叔父を平成版“松下幸之助”と思っています。従業員 17 人、年商 80 億円、申告所得 4 億円、借入金の手形は一枚も切っていない。また銀行にも興信所にも一切資料を提出しない。

叔父は、日本のメガバンクが「お金を借りてくれ」と来られるので困っていると時々私を訪ねてくる。無担保で 10 億円、期間 3 年、金利はなんと 0.8%である。ある時私は「そんな話を現在の中小企業の経営者が聞いたら怒りますよ」と言いました。叔父と私の共通点で、唯一尊敬する人は同一人物であり、私の祖母・叔父の母小美知であり

ます。時々私は日本国総理大臣が叔父に日本経済再建の相談をしたらいいとまで思うのです。こんな優良法人は今まで 37 年間職業会計人を営んで来ましたが見たことがありません。商社でありながら自己資本比率 80%（一般の商社は 10%以下）という漫画を超えた怪物的企業があります。そんな 82 歳の叔父に私が専門家としての意見をいうと、叔父は自分の不利に気づくと、いつも奥の手が出てきます。「お前、戦争中、防空壕の中で、私の母親（長女）にミルク忘れたから家に戻り持って来いと言って、母が家に帰りミルクを防空壕に持って帰ったこと知っているか」と言われると流石に反論できないのであります。私が生後 3 か月前後の話です。叔父は、私の意見に負けたとと思っている状態です。これが日本人の武士道精神における面子主義なのです。

中国人が本心を明かさないのは中国人の面子主義です。絶対負け犬にならない。中国人には敗北は人生の死を意味します。

2010/10/17